OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本語エディタ（NEDIT）
Author(s)	中島, 重雄
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1983, 51, p. 51-77
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65588
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

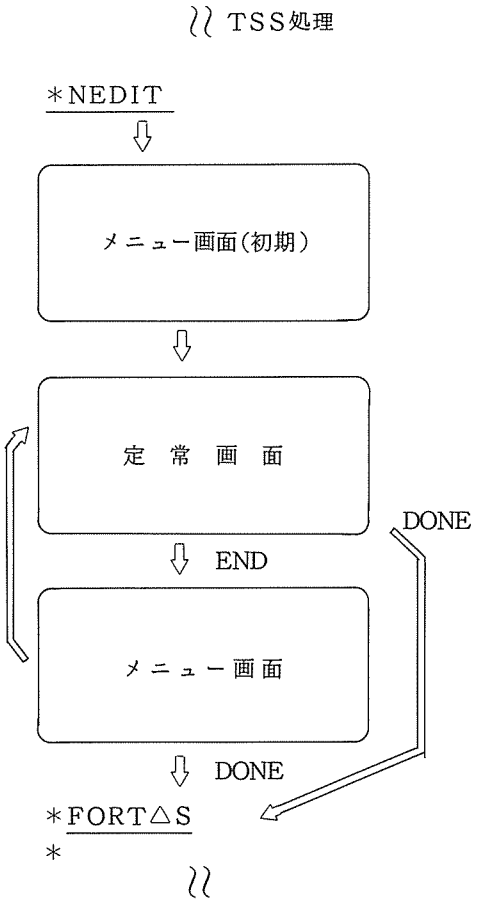
日本語エディタ（NEDIT）

業務掛　中　島　重　雄

1. 概　要

日本語エディタは、画面端末[注1)]を用いて、日本語データ、英数カナデータのテキストファイルの作成、編集、保守処理を行うサブシステムである。また、これらテキストの行、文字列あるいは文字単位での追加、削除、置換修正処理を、画面上のカーソル位置付けによって直接的に行える。

1.1　日本語エディタによる編集処理の流れ



- 日本語エディタサブシステムの呼び出し

- メニュー画面上の項目より必要な機能を選択。
- 項目の選択は、 HTAB , BTAB キーで行う。
- 送信 キー入力により定常画面へ。

- テキスト入力・行サブコマンドによる行単位編集・サブコマンドによる画面、ファイル単位編集。
- ENDコマンドにより、メニュー画面へ。
- DONEコマンドにより、ビルドモードへ。

- 処理内容の選択（ファイルの保存など）。
- メニュー項目を変更した後、 送信 キー入力により定常画面へ。
- DONE機能により、ビルドモードへ。

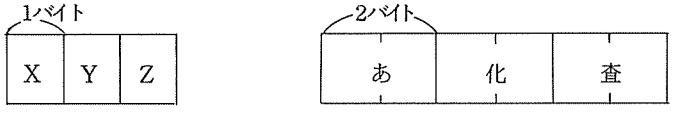
注1）N6300モデル20A/50N(ETOS-31K, ETOS-52), N5200モデル05(PETOS31K)。

2. 日本語データ

日本語エディタは、日本語データ（日本語文字または漢字文字ともいう）を従来の英数カナ文字（ＡＮＫ文字ともいう）と同時に編集を行う。編集処理は、つぎの形式の日本語データ、英数カナ文字のデータレコードに対して可能である。

(1) 日本語データは、「ＪＩＳ Ｃ 6226」で規定されるコード及びその拡張コードから構成される。詳細は、「ＡＣＯＳ－6　日本語情報処理システム概説書」を参照されたい。

(2) 英数カナ文字は、１文字が１バイトで表現される。日本語データは、１文字が２バイトで表現される。

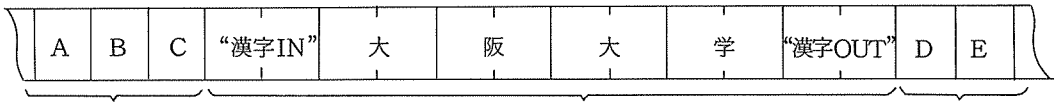


ANK文字　　日本語データ

(3) 日本語データの先頭と終わりに、“漢字ＩＮ”，“漢字OUT” と呼ばれる漢字シフトコード（それぞれ２バイト）が存在する。

“漢字ＩＮ”　：　1A70（HEX）
“漢字OUT”：　1A71（　〃　）

(4) 英数カナ文字と日本語データは、１レコード内に混在が可能である。英数カナ文字と日本語データの区別は、漢字シフトコードで行う。



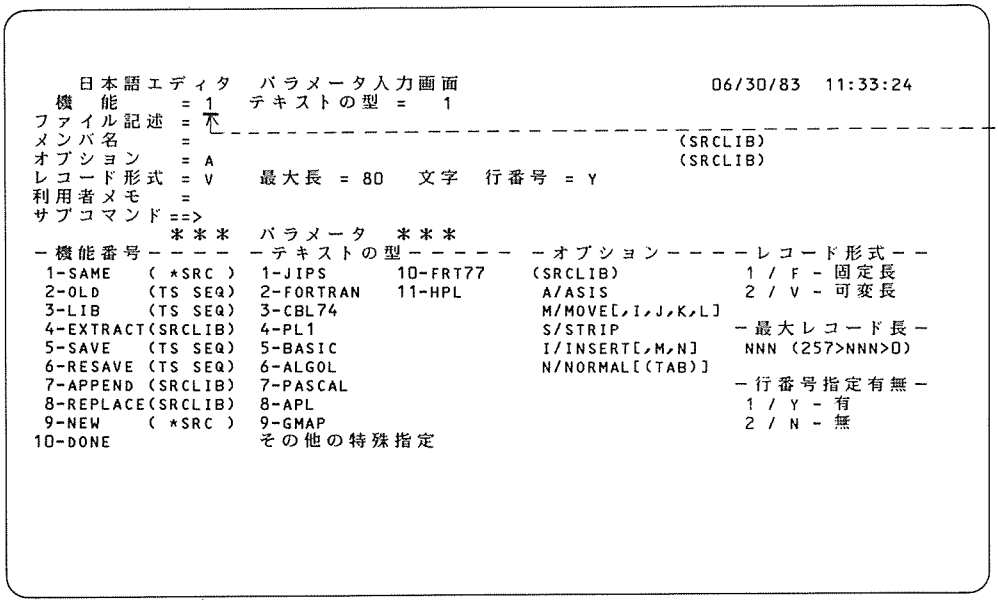
ANK文字　　日本語データ　　ANK文字

注）“漢字ＩＮ”“漢字OUT”は画面には表示されない。

3. メニュー画面と定常画面

(1) メニュー画面

NEDITコマンドを入力すると、下のようなメニュー画面が表示される。



① 初期メニュー画面は、上図のように既定値が与えられており、変更が必要ならばパラメータ入力を行い HTAB キーにより次の位置へカーソルが移動される。(BTAB キーによりバックが可能)

② 送信 キー入力により、次の定常画面が表示される。

例1) ファイル名が、CAT1/FILE1で行番号指定が無しの場合。

1) 2 キー(OLD) HTAB キー ……機能

2) HTAB キー ……テキストの型

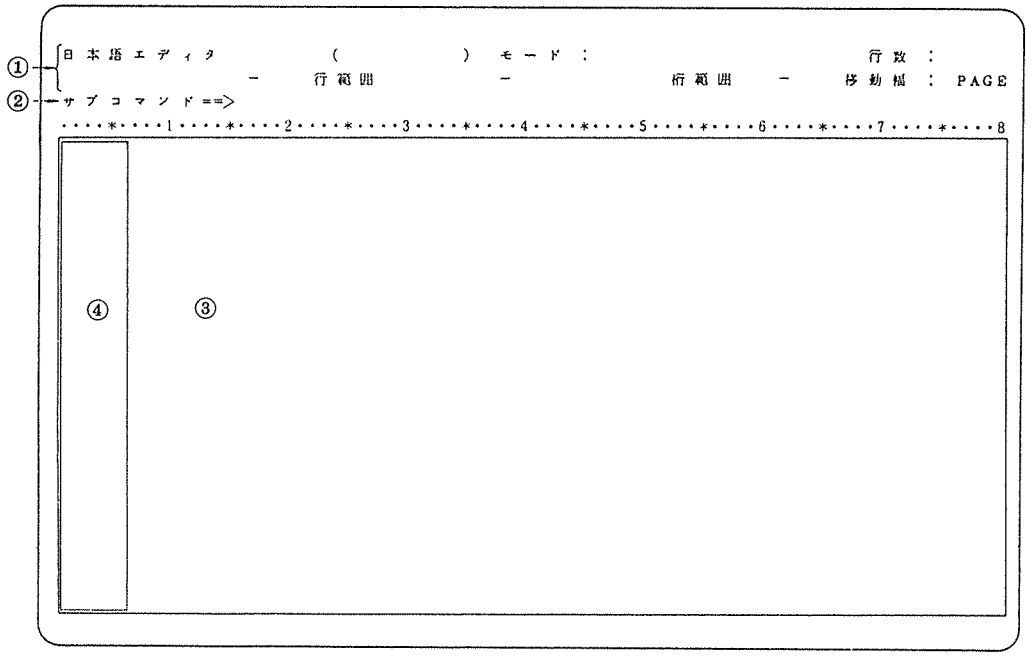
3) CAT1/FILE1 HTAB キー ……ファイル記述

4) HTAB HTAB HTAB HTAB

5) 2 キー(行番号指定無) 送信 ……行番号指定

(2) 定常画面

メニュー画面でのパラメータ指定に誤りがなければ、下のような定常画面が表示される。



① 最上行2行は〝見出し表示行〟である。

② サブコマンド＝＝>は、日本語エディタのサブコマンド(ファイル全体に対する編集指示あるいは、日本語エディタの終了指示等)の入力フィールドである。

③ 画面の第5行目から最終行(24行目)までの20行がテキストイメージの表示行である。〝直接編集〟可能な領域である。

④ テキストイメージ表示行の内、先頭(左端)の数桁行(テキスト中の行番号の桁と一致する。)が、行単位の編集指示をする〝行サブコマンド〟の入力フィールド〝行サブコマンドフィールド〟となる。

行番号をもたないテキスト、あるいは、行番号付きであっても行番号なしテキストと指示した場合には、この行サブコマンドフィールドは6桁分のフィールドがシステムによって用意される。

4. テキスト入力

① メニュー画面で、機能＝9（NEW）と入力し 送信 キーを押す。この場合、挿入予定行が100行作成される。挿入予定行が10行の場合、機能＝N 10 と入力し 送信 キーを押す。（Nℓℓℓ ℓℓℓ：1～999の範囲）

```
     日本語エディタ  パラメータ入力画面                          09/17/83 11:25:54
機　能        = N10  テキストの型 = 1
ファイル記述  =  ↑
メンバ名      =  └──── N10と入力し 送信 キー押す。      (SRCLIB)
オプション    = A                                       (SRCLIB)
レコード形式  = V     最大長 = 80   文字  行番号 = Y
利用者メモ    =
サブコマンド==>

              ＊＊＊  パラメータ  ＊＊＊
－機能番号－－－－－ －テキストの型－－－－－－ －オプション－－－－－レコード形式－－
 1-SAME    ( *SRC )  1-JIPS       10-FRT77    (SRCLIB)          1 / F - 固定長
 2-OLD     (TS SEQ)  2-FORTRAN    11-HPL       A/ASIS           2 / V - 可変長
 3-LIB     (TS SEQ)  3-CBL74                   M/MOVE[,I,J,K,L]
 4-EXTRACT(SRCLIB)   4-PL1                     S/STRIP          －最大レコード長－
 5-SAVE    (TS SEQ)  5-BASIC                   I/INSERT[,M,N]    NNN (257>NNN>0)
 6-RESAVE  (TS SEQ)  6-ALGOL                   N/NORMAL[(TAB)]
 7-APPEND  (SRCLIB)  7-PASCAL                  RESE[ M,N]       －行番号指定有無－
 8-REPLACE(SRCLIB)   8-APL                                       1 / Y - 有
 9-NEW     ( *SRC )  9-GMAP                                      2 / N - 無
10-DONE              その他の特殊指定
```

② 次のように定常画面が表示される。 ⇩

```
日本語エディタ *SRC    (        ) モード :                          行数 :    10
DATA     可変長 - 080  行範囲          -          桁範囲     -       移動幅 :PAGE
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版:
000010 ＿
000020 ↑
000030 └──カーソル位置
000040
000050
000060
000070
000080
000090
000100
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版:
```

③ テキスト入力を行う。

000010　WRITE(6, 6) HTAB キー

⇩

000010　WRITE(6, 6)

000020

└カーソルはこの位置にくるので HTAB キーを押し、000020＿の位置へもって行き、次のテキストの入力を行う。

④ 全てのテキスト入力が終了すると、送信 キーを押す。

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                          行数 :    10
DATA     可変長 - 080  行範囲          -          桁範囲    -          移動幅 :PAGE
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版:
000010 WRITE(6,6)
000020 6 FORMAT(5X,"** TEST **")
000030 STOP;END 送信 キー
000040
000050
000060
000070
000080
000090
000100
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版:
```

⇩

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                          行数 :     3
DATA     可変長 - 080  行範囲          -          桁範囲    -          移動幅 :PAGE
サブコマンド==>＿
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版:
000010 WRITE(6,6)
000020 6 FORMAT(5X,"** TEST **")
000030 STOP;END
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版:
```

⑤ カーソルは、サブコマンド入力フィールドにある。

例えば、このテキストをファイル名"FILE1"にSAVEするには、次のように行う。

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                          行数 :     3
JIPS     可変長 - 80                                                 移動幅 : 頁
サブコマンド==>SAVE FILE1 送信
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版.
000010 WRITE(6,6)
000020 6 FORMAT(10X,"***  TEST ***")
000030 STOP;END
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版.
```

⑥ 次に画面がクリアされ、以下のような表示になる。

DATA SAVED－ファイル名

R(ETURN)/U(PDATE)/M(ENU)/COMMAND?

⇨応答メッセージ

R：SAVEまたはRESAVEコマンドの受付時の状態に日本語エディタを戻す。

（定常画面が表示される）

U：カレントファイルの内容を日本語エディタのテキストとして処理を行う。

M：メニュー画面を表示する。

COMMAND：TSSのコマンド、利用者プログラムを指定し、その実行を行う。

```
SAVE FILE1
DATA SAVED-FILE1
R(ETURN)/U(PDATE)/M(ENU)/COMMAND?
=> FORT S
* RUN
    ** TEST **

*
```

5. カナ漢字変換

日本語エディタの特徴である日本語を取り扱うための操作法と使用例を示す。

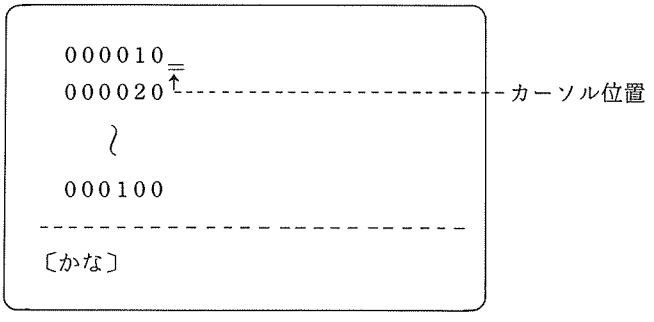
例） 次のようなテキストを作成する。

000010大阪大学

000020大型計算機センター

① FNC2 キーと 1/2バイト キーを同時に押す。

下図のように最下行左端に〔かな〕が表示される。



② $\boxed{\text{FNC2}}$ キーと $\boxed{\text{カナ/ローマ字}}$ キーを同時に押すことにより、カナキー入力とローマ字入力を切り換えることができる。

カナキー入力　〔かな〕

ローマ字入力　【かな】

③ ローマ字入力の例を示す。（カナキー入力は[注1)]を参照）

$\boxed{\text{漢字}}$ キーを押す。　〝【かな】〟表示が〝【漢字】〟表示となる。

④ 漢字の〝大〟が欲しいので、$\boxed{\text{D}}$ $\boxed{\text{A}}$ $\boxed{\text{I}}$ と入力し $\boxed{\text{変換}}$ キーを押す。

⑤ 【漢字】の右に〝代〟が表示される。

⑥ つづいて $\boxed{\text{変換}}$ キーを、〝大〟が表示されるまで押しつづける。

または、次のような表示のときは、数字を入力する。（この場合 $\boxed{2}$ を入力。その後 $\boxed{\text{漢字}}$ キーを押す。）

【英数】　1. 台　2. 大　3. 代

⑦ 〝大〟が表示されると $\boxed{\text{漢字}}$ キーを押す。

カーソルのある位置に〝大〟が入る。

```
000010大＝
  ≀≀
--------------------
【漢字】
```

カーソルは次の位置へすすむ。

⑧ つづいて、$\boxed{\text{S}}$ $\boxed{\text{A}}$ $\boxed{\text{K}}$ $\boxed{\text{A}}$ と入力し、〝阪〟が表示されるまで $\boxed{\text{変換}}$ キーを押す。

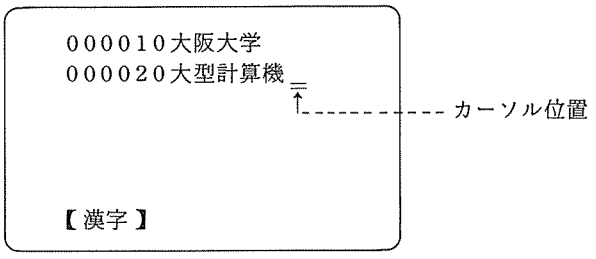
⑨ 〝阪〟が表示されると $\boxed{\text{漢字}}$ キーを押す。

⑩ 同じように、〝大〟〝学〟と入力する。

⑪ 次のテキスト000020にカーソルを持って行く為に、$\boxed{\text{HTAB}}$ キーを押すのであるが、【漢字】表示のときには効かないので、$\boxed{\text{変換}}$ キーを押し【かな】表示にし、$\boxed{\text{HTAB}}$ キーを押す。

注1）$\boxed{\text{漢字}}$ キーを押す。〔漢字〕表示になるので、〝大〟が欲しい場合 $\boxed{\text{タ}}$ $\boxed{\text{〝}}$ $\boxed{\text{イ}}$ と入力し、$\boxed{\text{変換}}$ キーを押す。

⑫ カーソルを000020＿にもってき、①②③の操作を行い、同じように〝大型計算機〟と入力する。



⑬ 〝センター〟とつづくので、 変換 キーを押し カナ キーを押す。【カナ】表示になるので、 S E N T A − と入力する。

参考1) 熟語入力も可能。例えば〝大学〟の場合、 D A I G A K U と入力し 変換 キーを押す。

参考2) 1行に漢字と英数(ANK文字)が混っている場合、例えば〝大学A〟では、〝大学〟を表示した後、 変換 キーを押し【かな】表示にし、 FNC2 キーと 1/2バイト キーを同時に押し【かな】表示を消す。それ以後、英数入力が可能になるので〝A〟を入力する。

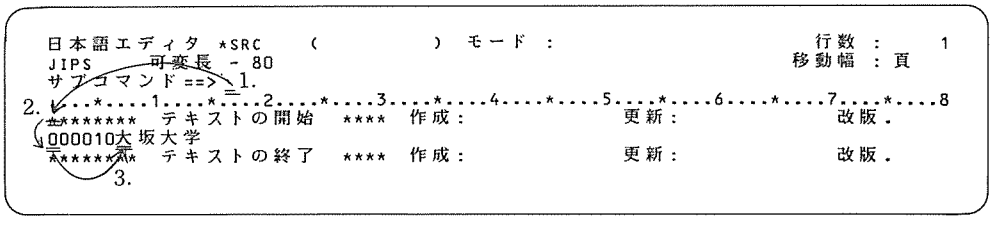
6. 直接編集

日本語エディタでのテキスト編集の基本は、画面上でのカーソル操作である。すなわちカーソルを修正しようとする文字へ、あるいは入力しようとする箇所への位置付けである。

(1) 文字修正

カーソルを目的の位置へ移動させ、直接修正する文字をキー入力する。

例) テキスト中の〝坂〟を〝阪〟に修正する。



① HTAB キーを押し、〝大〟の位置へカーソルをもってくる。

② → キーを押し、〝坂〟の位置へカーソルをもってくる。

③ FNC2 キーと 1/2バイト キーを同時に押す。

④ FNC2 キーと カナ/ローマ字 キーを同時に押し、【かな】表示にする。

⑤ 漢字 キーを押す。

⑥ S A K A と入力し、〝阪〟が表示されるまで 変換 キーを押す。

⑦ 〝阪〟が表示されると 漢字 キーを押す。

⑧ 変換 キーを押し、 送信 キーを押す。

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                    行数 :     1
JIPS     可変長 - 80                                          移動幅 : 頁
サブコマンド==> RESA TEXT1
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版.
000010大阪大学
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版.
```

(2) 文字の挿入

ある文字列の途中に任意の文字を挿入するときには、挿入したい位置の直後の文字位置にカーソルを位置づけ、挿入文字個数だけ〝挿入ファンクション〟キーを押し（漢字の場合１文字に対して２回）、NULLフィールドを作成し、文字入力を行う。

文字の挿入によって、そのフィールドの右端の文字は、次のフィールドへ移されることなく、順次抹消されて行くので注意する必要がある。このような場合、可能ならば途中の不用な文字（空白も含む）を削除してから処理するとよい。

例）テキスト中の〝大学〟と〝センター〟の間に〝計算機〟を挿入する。

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                    行数 :     1
JIPS     可変長 - 80                                          移動幅 : 頁
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版.
000010大阪大学センター
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版.
```

↳〝計算機〟を挿入する。

① カーソルを〝セ〟の位置へもって行く。

② 漢字３文字を挿入したいので 挿入 キーを６回押す。

③ FNC2 キーと 1/2バイト キーを同時に押す。

④ FNC2 キーと カナ/ローマ字 キーを同時に押す。

⑤ 漢字 キーを押す。左下の表示に【漢字】が表示される。

⑥ K E I と入力し 変換 キーを押す。

⑦ 〝計〟が表示されるまで 変換 キーを押す。

⑧ 〝計〟が表示されると 漢字 キーを押す。

〝大阪大学計△△センター〟に表示が変る。

⑨ [S] [A] [N] と入力し [変換] キーを押す。

⑩ 〝算〟が表示されると [漢字] キーを押す。

⑪ [K] [I] と入力し [変換] キーを押す。

⑫ 〝機〟が表示されると [漢字] キーを押す。

```
日本語エディタ *SRC    (          ) モード :                    行数 :     1
JIPS     可変長 - 80                                          移動幅 : 頁
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7....*....8
********  テキストの開始  ****  作成:              更新:              改版.
000010大阪大学計算機センター
********  テキストの終了  ****  作成:              更新:              改版.
```

(3) 文字の削除

ある文字を削除するときには、削除したい文字位置へカーソルを位置付け、[削除] キーを押す。

〝削除ファンクション〟キーを押すと、カーソルの位置の文字が削除されると同時に、それより右側に表示されていた文字は、削除された文字数分だけ左へ詰まる。

あるフィールド内で、文字削除だけを行う場合は、文字削除によってカーソル位置へシフトされた文字と同一の文字を、入力しておく必要がある。

例)　大阪大学大型計算大阪機センター　　大阪の2文字を削除する。

① カーソルムーブキー [→] を押し大の位置へカーソルを位置付ける。

⇩

② [削除] キーを2回押す。

⇩

大阪大学大型計算機センター

7. 行サブコマンド編集

行サブコマンドは、画面に表示されているテキストを見ながら、行単位での編集を行う為のコマンドであり、行サブコマンドフィールドでのみ入力できるものである。

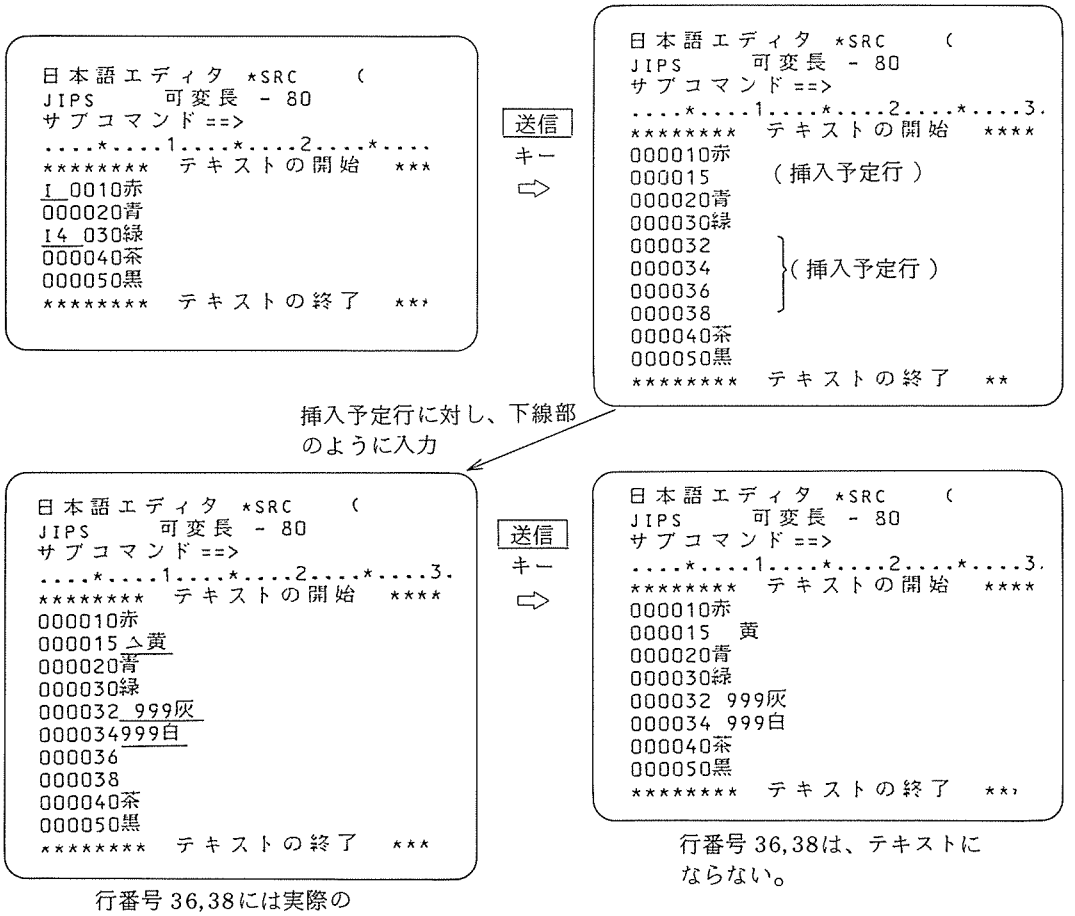
行サブコマンド一覧

機能名称	行サブコマンド形式	機能
After	A〔n〕△	CopyまたはMoveで指定したテキスト行をA指定行の〝後〟へn回挿入．n省略は1回の意味．
Before	B〔n〕△	CopyまたはMoveで指定したテキスト行をB指定行の〝前〟へn回挿入．n省略は1回の意味．
Transfer After	TA〔n〕△	TRNSサブコマンドで指定されたテキスト行をTA指定行の直後へn回挿入，n省略は1回の意味．
Transfer Before	TB〔n〕△	TRNSサブコマンドで指定されたテキスト行をTB指定行の直前へn回挿入，n省略は1回の意味．
Repeat	R〔n〕△	R指定行の行をこの行の直後にn回挿入，n省略は1回の意味．
Copy	C〔n〕△	Cn△指定行を含み，連続するn行のテキストを，BまたはA指定行の前または後へ複写．n省略は1行の意味．
	CC	CCとCCとで指定した範囲のテキストを，BまたはA指定行の前または後へ複写．
Delete	D〔n〕△	Dn△指定行を含み，連続するn行のテキストを削除．n省略は1行の意味．
	DD	DDとDDとで指定した範囲のテキストを削除．
Insert	I〔n〕△	In△指定行の直後に，n行の新たなテキスト行を挿入(実際のテキスト入力は直接編集)． n省略は1行の意味．
Move	M〔n〕△	Mn△指定行を含み，連続するn行のテキストを，BまたはA指定行の前または後へ移送．n省略は1行の意味．
	MM	MMとMMとで指定した範囲のテキストを，BまたはA指定行の前または後へ移送．
Join	J	このテキスト行と画面上の他のJ行サブコマンドの指定されたテキスト行を結合する．
Partition	P	このテキスト行を複数行に分割する。
Show	S	exclude機能によって表示されていないテキスト行を，再度表示．
exclude	X〔n〕△	Xn△指定行を含み，連続するn行のテキスト表示を一時省略(非表示)．n省略は1行の意味．
	XX	XXとXXとで指定された範囲のテキストを一時省略(非表示)．
text Left shift	<〔n〕△	<n△指定行のテキスト内容を，n桁左へ移動(シフト)． n省略は1桁の意味．
	<<〔n〕△	<<n△指定行から<<指定行までの範囲のテキスト内容を，n桁左へ移動(シフト)． n省略は1桁の意味

機能名称	行サブコマンド 形　　式	機　　能
text Right shift	>〔n〕△	>n△指定行のテキスト内容を，n桁右へ移動（シフト）． n省略は1桁の意味．
	>>〔n〕△ >>〔n〕△	>>n△指定行から>>指定行までの範囲のテキスト内容を，n桁右へ移動（シフト）． >>n△指定行から>>指定行までの範囲のテキスト内容を，n桁右へ移動（シフト）． n省略は1桁の意味．
Fixed	〕	画面の先頭表示行から〕指定行までを固定表示．
reVival	V	ベリファイモードで削除予定のテキスト行を削除しないことを指示する．

(1) 行の挿入

例1）行番号付きテキストの挿入



(2) 行の削除

例1) 行番号15, 30, 32, 40, 50, 60 を削除する。

```
日本語エディタ *SRC    (
JIPS      可変長 - 80
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3.
********  テキストの開始   ****
000010赤
D 0015黄
000020青
D2 030緑
000032灰
000034白
DD0040茶
000050黒
DD0060紅
000070紫
000080藍
000090朱
********  テキストの終了   ***
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ *SRC    (
JIPS      可変長 - 80
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3.
********  テキストの開始   ****
000010赤
000020青
000034白
000070紫
000080藍
000090朱
********  テキストの終了   ***
```

(3) 行の複写および移送

例1) テキスト中の〝青〟を〝紫〟の直後へ複写、〝朱〟を〝緑〟の直前へ移送。

```
日本語エディタ *SRC    (
JIPS      可変長 - 80
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3
********  テキストの開始   ****
0010赤
C 20青 ┐
0030白 │
A 40紫 ↵
0050藍
M 60朱 ┐
0070黄 ↵
B 80緑
0090灰
********  テキストの終了   ***
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ *SRC    (
JIPS      可変長 - 80
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3.
********  テキストの開始   ****
0010赤
0020青
0030白
0040紫
{0045青
 0050藍
 0070黄
{0075朱
 0080緑
 0090灰
********  テキストの終了   ***
```

(4) 行の左右移動

例1) テキスト中の〝黄␣黄〟を左へ4桁シフトし、〝灰␣灰〟を右へ2桁シフトする。

```
日本語エディタ COLOR   (          ) モ
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*.
********  テキストの開始   ****  作成
<4 010      黄   黄
000020  青   青
000030  緑   緑
>2 040灰   灰
********  テキストの終了   ****  作成
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ COLOR   (          ) モ
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*.
********  テキストの開始   ****  作成
000010  黄   黄
000020  青   青
000030  緑   緑
000040  灰   灰
********  テキストの終了   ****  作成
```

8. サブコマンド編集

サブコマンドは、画面に表示されているイメージのみに限らずテキストファイル全体に対してある文字列の修正、次に表示するテキスト行の指定、あるいは、編集処理の終了等を指定するコマンドである。

(1) サブコマンド一覧

機能名		サブコマンド形式	機能説明	使用例
テキスト表示	Locate	L	テキストファイルの先頭行から表示する。	L
		L△ℓ	行番号ℓで示される行から表示する.	L△200
		L△±n	カレント行から相対n行後(+)または前(−)の行から表示する。	L△+5
		L△±nP	カレント行から相対nページ後(+)または前(−)の行から表示する.	L△−5P
		L△/st/	カレント行以降で最初に見つかった文字列(st)を含む行から表示する.	L△/日本語
		L△/st/r	カレント行以降でr個目に見つかった文字列(st)を含む行から表示する.	L△/5
		L△ℓ/st/r	行番号ℓ以降でr個目に見つかった文字列(st)を含む行から表示する.	L△50/日本語/3
		L△±n/st/r	カレント行から相対n行後(+)または前(−)の行以降でr個目に見つかった文字列(st)を含む行から表示する.	L△±5/日本語/3
	Select	S△ℓ, ℓ, $\ell_1-\ell_2$,…	行番号ℓあるいはℓ_1からℓ_2の行間をセレクト対象行とする.	S△10,20,100−200,…
		S△±n,±n,±n;m,…	カレント行から相対n後(+)または前(−)の行，あるいはその行以降m行間をセレクト対象行とする.	S△−5,−2,+2;5,…
		S△/st/	カレント行以降の文字列(st)を含む行をセレクト対象行とする.	S△/日本語/
		S△ℓ/st/	行番号ℓ以降の文字列(st)を含む行をセレクト対象行とする.	S△50/日本語/
		S△±n/st/	カレント行から相対n行後(+)または前(−)の行以降の文字列(st)を含む行をセレクト対象行とする.	S△+5/日本語/
	No SElect	NOSE	セレクトモードを解除する.	NOSE
	SHIFt	SHIF△n	n桁目を画面のテキスト部先頭に位置づけて表示する.	SHIF 10

(注意) 表中△は空白を表わす。

機能名		サブコマンド形式	機能説明	使用例
表示テキスト	SHIFt	SHIF△±n	現在の画面のテキスト部先頭桁から相対n桁後(+)または前(−)から表示する.	SHIF△+10
テキスト送り	SCRoL1	SCRL△P	ページ単位(通常20行)をテキスト送りの単位とする.	SCRL△P
		SCRL△H	半ページ単位(通常10行)をテキスト送りの単位とする.	SCRL△H
		SCRL△ℓ	任意の行数ℓをテキスト送りの単位とする.	
カーソルセット文字列への	Find	F△/st/	画面イメージ内で最初に見つかった文字列(st)にカーソルを位置づける.	F△/日本語/5
		F△/st/r	画面イメージ内でr個目に見つかった文字列(st)にカーソルを位置づける.	F△/日本語/5
行の挿入	INSerT	INST△ℓ〔;n〕〔,ℓ〕〔;n〕〕…	行番号ℓのテキスト行の直後にn行分(省略は1)の挿入予定行を作成する.	INST△10;2
文字列置換	Change	C△/st_1/st_2	カレント行以降の最初に見つかった文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△/日本語/翻訳語
		C△ℓ/st_1/st_2/	行番号ℓ以降の最初に見つかった文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△50/日本語/中国語/
		C△ℓ/st_1/st_2/r	行番号ℓ以降のr個の文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△50/日本語/中国語/5
		C△ℓ_1−ℓ_2/st_1/st_2/r	行番号ℓ_1からℓ_2までの各行r個の文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△10−50/日本語/中国語/5
		C△±n/st_1/st_2/r	カレント行から相対n行後(+)または前(−)の行以降のr個の文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△+5/日本語/中国語/5
		C△±n;m/st_1/st_2/r	カレント行から相対n行後(+)または前(−)の行よりm行間の各行r個の文字列(st_1)を文字列(st_2)に置換する.	C△−5;10/日本語/中国語/5
文字列の複写	COPY	COPY	“<”と“>”で囲まれた抽出文字列をAまたはBの位置へ複写する. もとの文字列はそのまま.	
		COPY△C	以前の画面で抽出した文字列と表示画面の“<”と“>”で囲まれた文字列を結合してAまたはBの位置へ複写する. もとの文字列はそのまま.	

機能名		サブコマンド形式	機能説明	使用例
文字列の移送	MOVE	MOVE	“＜”と“＞”で囲まれた抽出文字列をＡまたはＢの位置へ移送する．もとの文字列は削除される．	
		MOVE△C	以前の画面で抽出した文字列と表示画面の“＜”と“＞”で囲まれた文字列を結合してＡまたはＢの位置へ移送する．もとの文字列は削除される．	
文字列の削除・行の削除	Delete	D△ℓ,ℓ,$\ell_1-\ell_2$,…	行番号ℓあるいは行番号間ℓ_1からℓ_2（省略は最後まで）を削除する．	D△4 D△8,9,100−115,500−
		D△±n,±n,±n;m	カレント行から相対ｎ行後(+)または前(−)の行，あるいは，その行よりｍ行間（＊は最後まで）を削除する．	D△+4,−50 D△+8；15
		D△/st/	カレント行以降の文字列（st）を削除する．	D△/日本語/
		D△/st/r	カレント行以降のｒ個の文字列(st)を削除する．ｒが＊のときはすべてを意味する．	D△/昭和/4
		D△ℓ/st/r	行番号以降のｒ個（省略は１）の文字列（st）を削除する．ｒが＊のときはすべてを意味する．	D△/明治/3
		D△±n/st/r	カレント行から相対ｎ行後(+)または前(−)の行以降のｒ個（省略は１）の文字列（st）を削除する．ｒが＊のときはすべてを意味する．	D△+4/明治/＊ D△−1/大正/
行の移送	Line Number EDit	LNED	行番号編集モードとする．	LNED
	No Line Number edit	NOLN	行番号編集モードを解除する．	NOLN
外部テキストの挿入	TRaNSfer	TRNS△I＝ファイル名 LN＝{Y/N} TRNS△I＝ファイル名（メンバ名） 〔△OP＝オプション〕 〔△LN＝{Y/N}	ＴＳＳファイルからテキストを入力し挿入する． ＬＮは行番号の指定． ソースライブラリアンファイルからテキストを入力し挿入する．	TRNS△I＝/M/SE/F1 TRNS△I＝A（Ｂ） △OP＝M △LN＝Y
識別子付与	IDENt	IDEN△/st/	挿入予定行のテキスト部先頭桁から識別子をセットする．	IDEN△/日本語/

機能名		サブコマンド形式	機能説明	使用例
識別子付与	IDENt	IDEN△n/st/	挿入予定行のテキストn桁から識別子をセットする.	IDEN△10/日本語/
	NOIDent	NOID	IDENTモードを解除する.	NOID
固定情報付与	MASK	MASK△n/st/〔,n/st/〕…	修正行に対してn桁(省略は1)から固定情報stを設定する.	MASK△10/ABC/ MASK△10/X/,20/B/, /Z/
	No MAsk	NOMA	MASKモードを解除する.	NOMA
ラモサイインドチ	FIRSt	FIRS△x	ラインモードサーチ記号xを定義する.	FIRS△#
	NOFIrst	NOFI	FIRST機能を解除する.	NOFI
行番号の再番号づけ	RESE quence	RESE△m,n	初期値m, 増分値nで全テキストを再番号づけする.	RESE△0010, 10
		RESE△m,n,ℓ_1-ℓ_2	行番号ℓ_1からℓ_2までのテキストを初期値m, 増分値nで再番号づけする.	RESE△0010, 10, 100-200
行コキサンマンセンブドル	CANCel	CANC△x	ペンディング行サブコマンドや固定行を解除する.	CANC M
編集ベリファイ	VERIfy	VERI	ベリファイモードを開始する. 削除行の確認を行う.	VERI
	No VErify	NOVE	ベリファイモードを解除する.	NOVE
編集範囲の限定	Boundary LINe	BLIN△ℓ	行番号ℓ以降最後までを編集範囲とする.	BLIN△0050
		BLIN△〔ℓ_1〕-ℓ_2	行番号ℓ_1(省略はカレント行)から行番号ℓ_2までを編集範囲とする.	BLIN△500-600 BLIN△-800
	No Boundary LIne	NBLI	行位置による編集範囲を有効にする.	NBLI
	Boundary COLumn	BCOL△C	テキストの桁位置Cからテキストの右端まで編集範囲とする.	BCOL△15
		BCOL△〔C〕;n	テキストの桁位置Cから桁数nまでを編集範囲とする.	BCOL△30;10
		BCOL△〔C_1〕-C_2	テキストの桁位置C_1(省略は1)からC_2までを編集範囲とする.	BCOL△40-72
	No Boundary COlumn	NBCO	桁位置の編集範囲を無効にする.	NBCO
文字列記憶指定	NOTE	NOTE△n/st/	記憶域番号nに文字列stを記憶する.	NOTE

機能名		サブコマンド形式	機能説明	使用例
制御文字の変更	EXCH ange	EXCH	すべての制御文字を標準とする.	
		EXCH△/x/y/	標準制御文字(x)を代替え制御文字(y)に変更する.	EXCH△/A/P/ EXCH△/(/#/
		EXCH△/x/	xで指定された標準制御文字に対応する代替え制御文字が消去される.	EXCH△/>/ EXCH△/B/
実行モードの指定	Program Execution	PECM	実行モードをその言語サブシステムの既定値とする.	
	Control Mode	PECM△x	実行モードをx(T, RまたはVのいずれか)とする.	PECM△T PECM△R PECM△V
画面の小、拡張縮	PAGE	PAGE△ℓ〔P〕	定常画面の行数をℓとする. "P"は画面の未使用部分を保護フィールドとする.	PAGE△15P
		PAGE	定常画面のサイズを標準にする.	PAGE
画面分割	SCreen SPlit	SCSP△Cn	定常画面をn桁位置から縦に分割する.	SCSP△C4
		SCSP△Ln	定常画面をn行目から横に分割する.	SCSP△L15
	SPLI t	SPLI△〔パラメータ〕	画面分割の指示を行い, 同時に編集する新しいテキストのファイルを指定するパラメータはSEDITコマンドと同じ	SPLI△I=A SPLI△I=B(C)
	No SPlit	NOSP	画面分割編集を終了する.	NOSP
編集終了		END DONE	テキスト編集終了 日本語エディタ終了	END DONE

(1) Locateサブコマンド

例1）指定した行番号から表示する。

```
日本語エディタ  *SRC     (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>L 40
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010北海道大学
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作
```

送信キー ⇨

```
日本語エディタ  *SRC     (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作成
```

例2）指定した文字列“阪”を含む行から表示する。

```
日本語エディタ  *SRC     (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>L /阪/
....*....1....*....2....*....3....*
********  テキストの開始   ****  作成
000010北海道大学
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作
```

送信キー ⇨

```
日本語エディタ  *SRC     (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作成
```

(2) Selectサブコマンド

例1）指定した行番あるいは行番間をセレクト対象行とする。

```
日本語エディタ  DAIGAKU (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>S 20-40,60
....*....1....*....2....*....3....*
********  テキストの開始   ****  作成
000010北海道大学
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作
```

送信キー ⇨

```
日本語エディタ  DAIGAKU (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*
********  テキストの開始   ****  作成
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000060大阪大学
********  テキストの終了   ****  作成
```

例 2）指定した文字列“京”を含む行をセレクト対象行とする。

```
日本語エディタ  DAIGAKU (          ) =
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>S /京/
....*....1....*....2....*....3....*
********  テキストの開始   ****  作成
000010北海道大学
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作成
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ  DAIGAKU (          ) =
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....*
********  テキストの開始   ****  作成
000030東京大学
000050京都大学
********  テキストの終了   ****  作成
```

(3) SHIFTサブコマンド

例 1） n桁目を画面のテキスト部先頭に位置づけて表示する.

```
日本語エディタ  *SRC     (          ) モード :
DATA      可変長 - 080  行範囲          -
サブコマンド==>SHIF +10
....*....1....*....2....*....3....*....4....*....
********  テキストの開始   ****  作成 :
000010北海道大学  東北大学  東京大学  名古屋大学
000020京都大学    大阪大学  九州大学
********  テキストの終了   ****  作成 :
```

送信 キー ⇩

```
日本語エディタ  *SRC     (          ) モード :
DATA      可変長 - 080  行範囲          -
サブコマンド==>
    ....*....2....*....3....*....4....*...
********  テキストの開始   ****  作成 :
000010道大学  東北大学  東京大学  名古屋大学
000020大学    大阪大学  九州大学
********  テキストの終了   ****  作成 :
```

参考） テキストの表示行の左端、または右端の１桁に日本語データの１文字の半分（１バイト）が、またがって表示されるような場合、そのカラムに“＊”を保護フィールドとして表示する。

```
日本語エディタ  *SRC     (          ) モード  :
DATA       可変長 - 080  行範囲            -
サブコマンド==>SHIF +21
....*....1....*....2....*....3....*....4....*...
********  テキストの開始   ****  作成:
000010北海道大学  東北大学  東京大学  名古屋大学
000020京都大学    大阪大学  九州大学
********  テキストの終了   ****  作成:
```

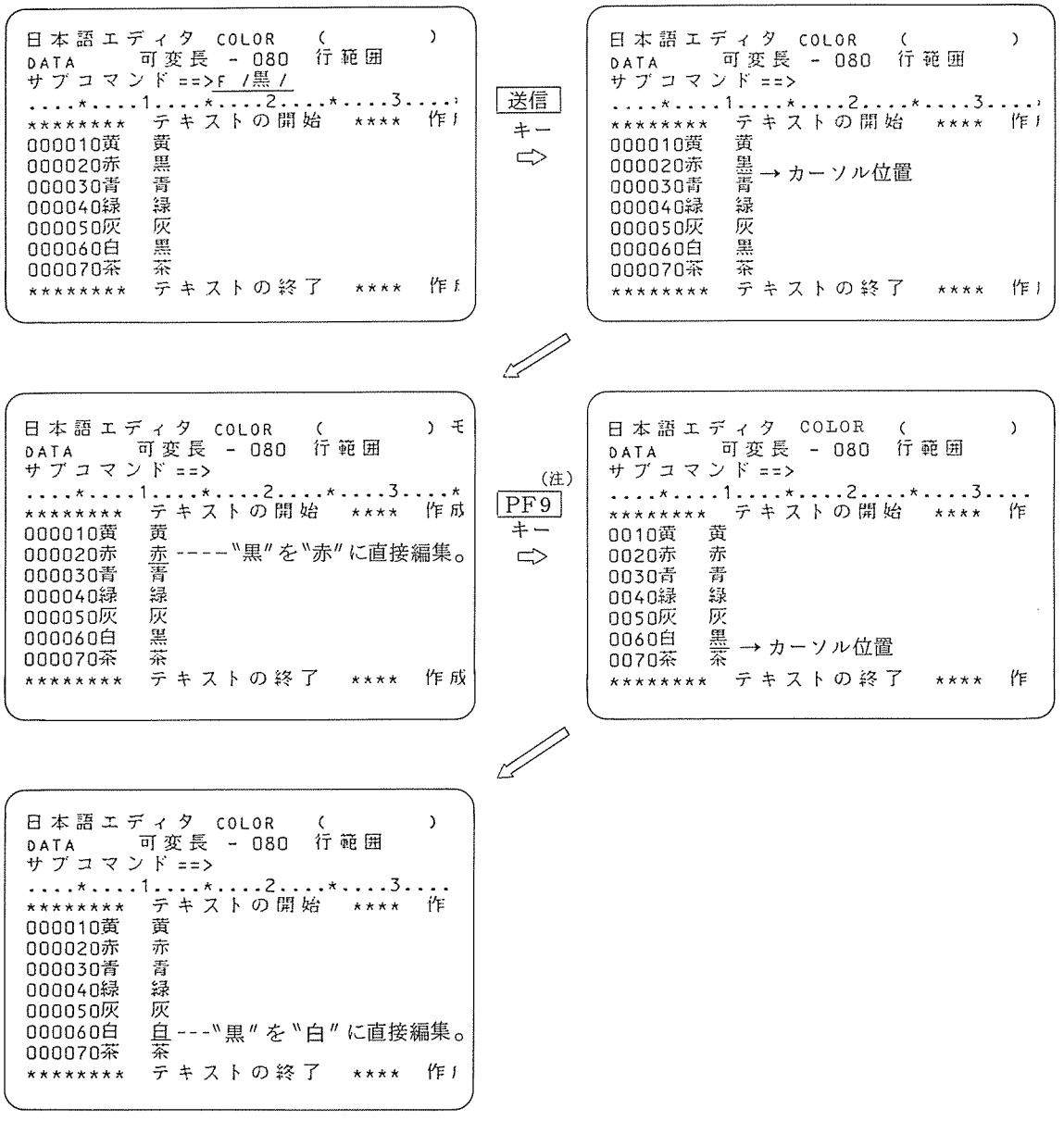
送信 キー ⇩

```
日本語エディタ  *SRC     (          ) モード
DATA       可変長 - 080  行範囲            -
サブコマンド==>
       ...*....3....*....4....*....5....
********  テキストの開始   ****  作成:
000010*大学  東京大学  名古屋大学
000020*大学  九州大学
********  テキストの終了   ****  作成:
```

└保護フィールド

(4) Findサブコマンド

例1) 指定した文字列“黒”にカーソルを位置付け、直接編集を行う。



(注) 一度、Find文字列を指定した後は PF9 キーによって次の該当文字列にカーソルを位置づけることが出来る。

(5) INSerTサブコマンド

例1) 指定した行番号の直後にn行分の挿入予定行を作成する。

```
日本語エディタ  DAIGAKU (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>INST 60;2
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010北海道大学
000020東北大学
000030東京大学
000040名古屋大学
000050京都大学
000060大阪大学
000070九州大学
********  テキストの終了   ****  作
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ  DAIGAKU (
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3
000060大阪大学
000063
000066
000070九州大学
********  テキストの終了   ****
```

(6) Changeサブコマンド

例1) ファイル上の文字列“白”を“赤”にすべて置換する。

```
日本語エディタ  COLOR   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>C /白/赤/*
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010黄   黄
000020青   青
000030緑   緑
000040灰   灰
000050白   白
000060黒   黒
000070白   白
********  テキストの終了   ****  作
```

送信 キー ⇨

```
日本語エディタ  COLOR   (
34 処理回数は  00004 回  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3
000050赤   赤
000060黒   黒
000070赤   赤
********  テキストの終了   ****
```

参考) C␣/白/赤/*の“*”はファイル全体に対して有効となる。

(7) COPYサブコマンド

例1）テキストの“黄␣黄”を、指定した位置へ複写する。

```
日本語エディタ  COLOR    (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010黄    黄
000020青    青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    白
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

送信キー

```
日本語エディタ  COLOR3   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>COPY
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010<<    >>
000020B     青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    A
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

```
日本語エディタ  COLOR3   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010黄    黄
000020黄    黄青    青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    白黄    黄
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

(8) MOVEサブコマンド

例1）テキストの“黄␣黄”を、指定した位置へ移送する。

```
日本語エディタ  COLOR3   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3...
********  テキストの開始   ****  作
000010黄    黄
000020青    青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    白
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

送信キー

```
日本語エディタ  COLOR3   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>MOVE
....*....1....*....2....*....3...
********  テキストの開始   ****  作
000010<<    >>
000020B     青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    A
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

```
日本語エディタ  COLOR3   (          )
DATA      可変長 - 080  行範囲
サブコマンド==>
....*....1....*....2....*....3....
********  テキストの開始   ****  作
000010
000020黄    黄青    青
000030緑    緑
000040灰    灰
000050白    白黄    黄
000060茶    茶
********  テキストの終了   ****  作
```

（注）Bは直前に、Aは直後に挿入することを意味する。

(9) その他のサブコマンド

以下にその他のサブコマンドとして機能の説明を行いますが、これら以外のサブコマンドまたは詳しい説明は、「日本語情報処理日本語エディタ説明書」を参照のこと。

① Delete ： ファイル全体に対して文字列、行削除を行う。

② LNED ： 行番号を直接修正し、その行番号に相当する位置へテキストを移送する。

③ TRaNSfer： ある任意の位置に外部ファイルを挿入することができる。挿入位置はTA，TB行サブコマンドによる。

④ IDENT ： 常に一定のコメントを、ある任意の位置にセットする。セット位置はI行サブコマンドによる。

⑤ MASK ： 直接編集等により、テキストの修正が行われたとき、そのテキストに対して、自動的に固定情報を付与する。

⑥ FIRSt ： 文字列サーチで、テキストの先頭のみを意識してサーチすることができる。例 L␣/∧ああ/ この場合の“∧”が規定値で、この文字の変更を行うものである。 例 FIRS␣#→L␣/#ああ/

⑦ RESE ： 行番号を設定する。

⑧ CANCel ： 実行保留になっている行サブコマンドを解除する。

⑨ VERIfy ： Deleteサブコマンド・Delet行サブコマンドを実行したとき、削除行をブリンキングして確認を行うことができる。

⑩ BLIN ： 指定した行番号間を編集範囲とする。

⑪ BCOL ： 指定したカラム間を編集範囲とする。

⑫ SCSP ： 定常画面の表示を、縦または横に分割する。

附録　主なキー機能

端末キー	機　　能
HTAB	カーソル位置を、キー入力可能なフィールドの先頭へ位置付ける。（画面の上から下方向へ移動）
BTAB	カーソル位置を、キー入力可能なフィールドの先頭へ位置付ける。（画面の下から上方向へ移動）
送　信	修正&再表示（画面上で、直接編集等を行った場合、このキーを押すことによりカレントファイル上の修正が行われる）
I	修正&スクロールアップ。（現在の画面表示を次の画面表示にする）
II	修正&スクロールダウン。（現在の画面表示を前の画面表示にする）
削　除	カーソル位置の１文字が削除されると同時に、その行の以降の文字が左にシフトされる。（カーソル位置は移動しない）
挿　入	カーソル位置へ新たな文字の挿入が可能となる。文字入力と同時に、その行の以降の文字は右へシフトされる。（カーソルの位置は１桁右へ移動）
↑ ↓ ← →	カーソルを上下左右に移動する。
PF9	F（Find）サブコマンドで指定された文字列を、画面内でサーチする。
PF10	実行保留の行サブコマンドを、全てキャンセルする。
PF11	テキスト再表示、画面単位で修正以前のイメージを表示する。（直接編集を行って 送信 を押す前に有効）
PF12	SHIFTサブコマンドで、SHIF␣－nを行うと、以降このキーでn桁右へシフトする。
PF13	SHIFTサブコマンドで、SHIF␣＋nを行うと、以降このキーでn桁左へシフトする。

参考文献）ACOS－6　日本語情報処理　日本語エディタ説明書　　日本電気